

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	麻生町立行方小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数 12
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	
児童数	9	18	25	18	13	16	5	104	

研究の概要

1. 研究主題

学ぶことの楽しさや充実感が味わえ、「確かな学力」の定着を図るための指導法の工夫
～児童一人一人に基礎・基本の定着を図る学習活動をめざして～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

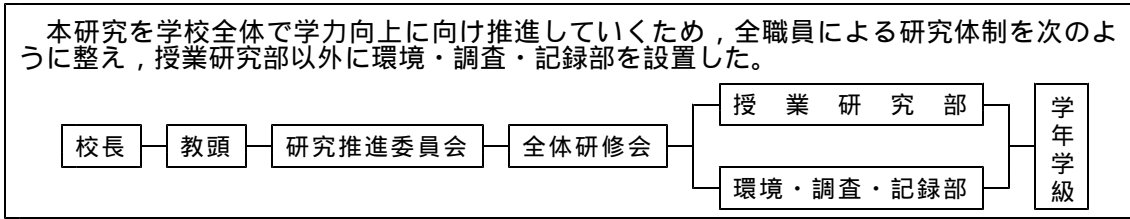
1・2・3・4・6年(算数)
児童の理解の状況に差が出やすい教科, 学年であるため。
平成14年度より麻生町指定の研究推進を実施し, 算数科に関する継続研究を行うため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 学ぶことの楽しさや充実感が味わえ、「確かな学力」の定着を図るための指導法の工夫 ～児童一人一人に基礎・基本の定着を図る学習活動をめざして～</p> <p>研究の見通し(仮説) 児童一人一人に基礎・基本の確かな定着を図るための学習活動を工夫・改善していけば, 子どもたちが自ら課題をもち, 主体的に取り組むようになり, 学習活動に対して親しみを感じ, さらに, 学ぶ楽しさを実感でき, 充実感が味わえるようになるであろう。そして, さらにはその力が『生きる力』に結び付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法 研究のポイント(算数科の授業を通して) (1) 授業実践計画にあたって 算数科での基礎的・基本的事項の洗い出し。 ・全学年単元別評価規準の作成。 ・全学年領域別「単元系統表」の作成。 ・「名称, 語句, 公式等における学年別基礎基本」事項の一覧表の作成。 ・学年別毎時間での「身につけさせたい基礎基本」の作成。 代表授業実践による校内研修。 (2) 個に応じたきめ細かな指導のために レディネステストを実施し, 既習内容の定着度の状況を把握。 学習内容を考慮した授業形態の工夫。 (TT時, 少人数指導時, 習熟度別指導時, 課題別学習時) (3) 授業後の評価について 評価規準をもとにした教師の授業時の継続的評価。 児童用自己評価カードの活用。 (4) 算数的学習環境づくり 「算数ランド」の設営。 廊下掲示板(クイズ)や階段(位取り), 校舎外(図形等の実物)に算数環境。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 確かな学びをはぐくむ学習指導法の工夫 ～基礎・基本を生かし, 個に応じたきめの細かな指導を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説) 平成15年度算数科を通して「基礎的・基本的事項」の洗い出し及びその定着を図る学習活動に取り組んできた。平成16年度はこれらの内容を児童一人一人に一層の定着化を図るとともに, 新たに国語科を研究教科に加え, 自ら課題を把握し, 基礎的・基本的事項を踏まえた上で, 進んで課題解決を図ることが「確かな学び」につながるものと考え, 本テーマを設定した。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 国語科・算数科での個に応じるための指導形態・指導方法の研究。 (2) 国語科・算数科における基礎学力の育成とその実践研究。 (3) 単元ごとの評価規準及び評価方法の工夫。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 楽しさや充実感を味わえるための学習指導法

板書の工夫... 課題提示の際、「問題」と「めあて(課題)」を明確にして児童に提示。

課題... 問またはもで青線を引く。 問題... めまたは課で赤線を引く。

学習のしつけ... 全教科にわたって全学年で約束事の統一化を図った。

学習形態

ア ティーム・ティーチング(以下TT)を生かした指導

基礎的・基本的内容を確実に身に付け、主体的、創造的な学習を展開。

一人一人を大切にしたいきめの細かい授業の実践

イ 少人数指導・習熟度別指導

長所を生かし、短所を補いながら一人一人に対応した指導の実践。(右図)

ウ 課題別学習

課題間の差をあまり大きくしないようにして、興味・関心に応じた課題選択を加味した内容に設定した。

エ 算数的活動

具体的な操作活動を多く取り入れ、直接経験を生かした学習を取り入れた。

評価内容・方法

の工夫改善

ア 「評価規準」

の作成

指導と評価の

一体化をするため本

校独自の単元毎の

評価規準(B規準)

を作成。

イ 「単元系統図」

の作成

全学年を見通した算数科での各領域

別の単元系統を図式化。

各学年の単元の流れを把握した。

領域別に各学年相互の関連性を把握した。

児童のつまづきを調査・確認する

上で振り返りやすい。

学習計画を立てたり、既習未習を

調査・把握する上で有効に活用した。

ウ 「名称、語句、公式等における学年

別基礎基本」事項の一覧表の作成

表は各学年で学習する名称や語句、

求積公式、図形の各部の名称、単位...

など、知識・理解面での基礎・基本と

なるものを一覧表にした。

指導・支援の際、「 $\frac{1}{10}$ は年生で学

習している」という情報をつかんで指

導にあたった。

エ 「身に付けさせたい基礎・基本」の作成

目標に準じて1時間1時間で児童に

身に付けさせたい内容を児童の学習活

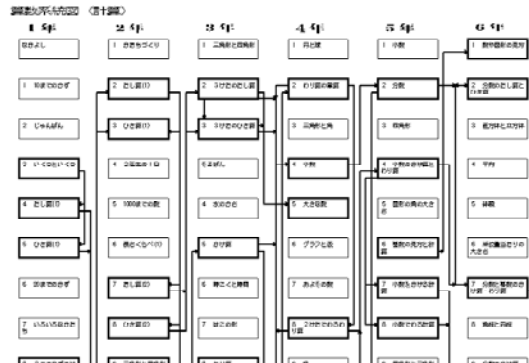
動・内容と合わせて一覧表にした。

(次ページ)

長所(教師側, 児童側)	短所(教師側, 児童側)
目が行き届く きめ細かい指導ができる(技能面) 声かけが多くできる ノート指導がしやすい 実態に応じた指導ができる たくさん声をかけてもらえる 個人的に指導してもらえる	多様な見方・考え方を指導しにくい 学び方を指導しにくい 目が行き届きすぎて手をかけすぎると 一人一人の声が聞こえずぎて対応に おわれる 多様な見方・考え方にふれにくい 先生に依存する傾向が生まれる

6年2学期 ※単元名及び学習事項は、「たのしい算数」の教科書の配列順です。

評価規準	算数への関心・意欲・態度	数値的考え方	数量や図形についての表現・処理	量や図形についての知識・理解
10. 分数のわり算 分数でわる計算	・乗法の意味の拡張になら ず、分数の除法について も意味の拡張をむか り、整数の場合と同じ形 式で立式できるようにし ようとする。 ・分数でわる除法の計算 のしかたを既習事項を用 いて積極的に考え出そうと する。 ・もとにする量が分数で何 倍かを求めるときや補 数が分数でももとにする量 を求めるときに除法が用 いられることを知り、分 数の除法を積極的に用い ようとする。	・数直線を用いて、分数で わる計算の意味を小数の 場合と統合的にとらえ る。 ・立式の根拠を数直線を用 いて説明する。 ・分数の除法の計算方法 を、既習の分数や計算の きまりをもとに考え出し たり説明したりする。	・除数が分数の場合の除法 の場面を立式ができる。 ・分数でわる除法の計算が できる。	・分数でわることの意味が わかる。 ・分数でわる除法の計算順 序や計算方法がわかる。 ・除数の大きさによる被除 数と商の大きさの関係が わかる。 ・除数(もとにする量、倍) が分数の場合の除法の意 味がわかる。
8. 平均方法	評価	評価	評価	評価



学年別 算数基礎基本事項(名称、語句、公式、他)

語句	公 式	他
0.012 (0.12の $\frac{1}{10}$) 「 $0.012 = 12 \times 10^{-3}$ 」 1.342 (1.32と0.042を合わせたかき) 「 $1.342 = 1.32 + 0.042$ 」 $\frac{1}{10}$ の位=小数第二位 $\frac{1}{100}$ の位=小数第三位		100m=0.1km 10m=0.01km 1m=0.001km 「 $1000m=10^3 \times 1m$ 」

単元	1 数や図形の見方	2 分数のたし算とひき算	3 立方体と立方体
学習活動・内容	身に付けさせたい基礎・基本	学習活動・内容	身に付けさせたい基礎・基本
1	○大きな数の乗法の積を、積算を用いて計算し、見積もる。 ○純乗数、乗数を四捨五入しよって上から1けたの積算にして計算し、積を見積もることができる。	○大きな数の等しい分数の分母を揃え、分子を揃え、分子の和・差を求め、分子と分母の最大公約数を約分して、大きな数の等しい分数をつくる。 ○分数は、分母と分子に同じ数をかけても、同じ分数でなくても大きさは変わらないことを理解し、大きな数の等しい分数を作ることができる。	○いろいろな形の面の形に着目して分類することを通して、「立方体」「立方体」の用語とそれらの定数を知り、分類することができる。 ○「見取り図」の用語とその意味を知る。 ○立方体と立方体の性質を、頂点、辺、面などの構成要素から、辺(4)、面(12)、頂点(8)という立方体と
2	○大きな数の除法の商を、積算を用いて計算し、見	○「約分」の用語とその意味を知り、分数より約分	○立方体と立方体の性質を、頂点、辺、面などの構成要素から、辺(4)、面(12)、頂点(8)という立方体と

処理・技能面での確実な定着化(自作ドリルの作成と繰り返し練習)

計算処理問題を中心に作成し、授業での学習内容の確認問題、あるいは復習問題、繰り返し練習問題として活用した。

(2) 学習環境の整備

算数的(数学的)考えの素地を培うための「算数ランド」の設置。

学習資料(具体物、半具体物及び教材教具)の整備と活用。

授業での使用を目的に作成した半具体物等も児童の思考の連続を図ったり、反復練習の機会を多く与える意味で算数ランドに整備し、まとめておくようにした。

算数ランドと教材室を併設し、市販の教材等も開放し、活用できるようにした。

算数環境の整備、充実...教室内の算数コーナーの活用。

廊下掲示板の活用(クイズコーナーの設置)。

学年に応じた頭の体操的クイズ。

外環境に実物描写(長さ、面積、図形)...算数的遊びの実現。

(3) 評価資料の工夫・改善

どの単元でも使用できるようなふりかえりカードを作成し活用した。(右図)

2. 今後の課題

算数科での「基礎的・基本的事項」の一層の定着を図る学習指導の推進と継続研究をする。研究する内容に国語科を加え、学習課題を把握し自力で課題解決をすることのできる児童を育てるための研究を推進する。小中学校での互いの学習参観や合同研修会などの連携により、児童生徒の基礎的・基本的事項の確実な定着と一層の学力向上を図る。既習の内容を身に付けている児童への発展的な学習の教材開発及び教師の支援を必要とする児童への補充的な学習の教材開発の研究を一層進めていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

	県学力診断のためのテスト	児童向けの算数意識調査
目的	当該学年での算数科の内容の身に付いた度合いを調査をする。	嫌いな教科に上げられることが多い「算数」について本校児童がどのような気持ちで算数科の学習に取り組んでいるのかを調査する。
実施内容	算数科全領域にわたった内容。	好きな教科、算数が楽しいとき、算数で好きな学習内容・嫌いな学習内容などについての児童の意識についてのアンケート。
時期	5月	7月、12月、3月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 平成15年11月21日(金)に茨城県フロンティアスクール及び鹿行地区教職員及び麻生地区保護者対象に研究発表会を開催した。
- 平成16年10月29日(金)に研究発表会並びに研究協議会の実施を予定している。
- * 研究成果普及のためのHP作成 <http://sopia.or.jp/nameel/>
- * 全学年算数科における「身に付けさせたい基礎・基本」「領域別単元系統表」を作成した。
- * 各学年で「自作問題集」を作成し、計算を中心とした技能向上を図った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級 13～18学級
- 19～24学級 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
- 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科 生活
- 音楽 図画工作 家庭 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無